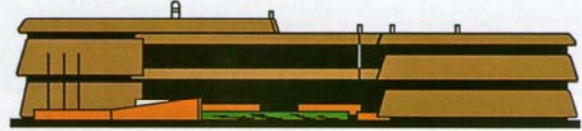


苫小牧市 博物館だより

2008.3
No57



椿文茶碗 昭和38年（財団法人 出光美術館 所属）

市制60周年記念美術展 出光美術館コレクション 板谷波山 展

期間 平成20年9月27日～11月3日

会場 苫小牧市博物館 特別展示室

出光興産株式会社北海道製油所操業35周年および苫小牧市制60周年を記念して「出光美術館コレクション 板谷波山展」を今年開催いたします。

陶芸家として、初めて文化勲章を受章した板谷波山の作品と原画を展示します。緻密にデザインされ、精巧に作られた美しい陶磁器の数々が、皆様をお待ちしております。

新着資料展
江戸の刀から昭和の家電まで
 平成20年2月14日(木)~3月30日(日)

苫小牧市博物館には、毎年500件ほどの資料が市民の方々から寄贈になります。今回は、この3年間に寄贈になった資料で、特に資料価値の高いものや、苫小牧に縁の深いものなど「学芸員おすすめの逸品」を公開しました。展示した歴史・民族・民俗・美術・自然分野の資料の中から、いくつかを選び、紹介します。

刀・薙刀(なぎなた)・槍(やり)

刀には鞘(さや)、鐔(つば)などの刀装具(とうそうぐ)が施されています。これは、人体や刀を保護し、同時に、刀の所有者の身分や権威を明確にする役割がありました。

江戸時代の薙刀や槍は、実用よりも飾り道具として用いられ、金銀蒔絵や螺鈿(らでん)など美しい細工が施されているものも残されています。



アットゥシ(樹皮衣)



アットゥシは、アイヌの伝統的な衣服で、オヒョウなどの樹木の内樹皮で作られた糸で織られています。写真は、約150年前に苫小牧のイワシ漁場で働いていた人が、秋田に戻る際に持ち帰ったものです。

ラテカセ・・・昭和中期の家電

昭和30年代に入ると、テレビ、冷蔵庫などの家庭用電化製品が一般家庭に普及し、昭和47年には「ラテカセ」と呼ばれる、ラジオ、テレビ、カセットデッキが一体になったものが登場しました。価格は発売当初6~10万円と高価なものでした。屋外にも持ち運べるため、とても人気が出ましたが、次第に需要が減少し、昭和62年に生産が終了しました。



川上澄生の版画

川上澄生(1895-1972)は苫小牧中学(現苫小牧東高)で教壇に立ちながら「女性とランプ」「苫小牧の樽前山」などをモチーフにした多くの版画を残しています。下の写真は「後姿前姿」というタイトルの版画の一部です。

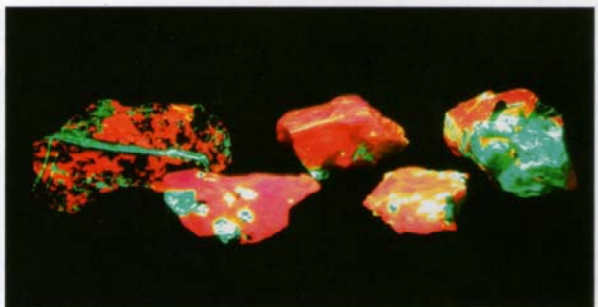
川上澄生の作品は、その色彩の鮮やかさなどから高く評価されています。



化石・鉱物

写真の蛍光鉱物は光・熱・紫外線などのエネルギーを与えると、発光する性質を持っています。光には、エネルギーを受けている間のみ光る「蛍光」と、その後も発光が継続する「燐光(りんこう)」の2種類があります。

地球上にある約4,000種の鉱物のうち、500種ほどが、蛍光または燐光を発するので、鉱物の鑑定や鉱脈の発見に使われます。蛍光灯や蛍光マーカーには、この現象が利用されています。



こどもの日だよ 博物館 ～「こどもの日」は博物館へ!～

5月5日は「こどもの日」。「こどもの日だよ博物館」と題して、いくつかの行事を実施しました。

実物資料に触れたり、収蔵庫を探検したりして、大人も子供も一緒に楽しみながら博物館や資料の役割について学んでいました。その様子を紹介します。

博物館蔵開き

普段は公開していない、博物館地下収蔵庫のガイドツアーを実施しました。多くの市民が参加し、市内で発掘された土器、鳥や哺乳類の剥製、アイヌの工芸品などを学芸員の解説を受けながら見学しました。

計127名の参加者は、貴重な資料の数々に、「面白い!」「すごい!」と、感心しながら、見入っていました。



博物館蔵開き

さわってみよう、やってみよう博物館

「実物の資料に触れ、昔の生き物や歴史について学ぼう」と、「化石のレプリカ作り」と「土器・古銭の拓本作り」の体験行事を実施しました。

107名が参加し、資料の説明や拓本・レプリカが研究施設や博物館で果たす役割を聞いてから、作り始めました。



化石のレプリカ作り



拓本作り

完成した作品を「ほら見て!」と興奮交じりに見せ合う子供たちの姿も見られました。

昔の暮らし探検隊 ～昭和の暮らしを体験しよう～



お釜でご飯を炊いてみよう

「昭和の中頃までの生活体験を通して、郷土の歴史や文化を学ぶきっかけをつくる」という目的で「昔の暮らし探検隊」を実施しました。今年度は「洗濯板を使ってみよう」「お釜でご飯を炊いてみよう」「石うす体験と米粉(べこ)餅作り」「昔の遊びを体験しよう」の、衣食住を主なテーマにした行事を実施しました。

各行事の中では、昭和30年頃の生活を体験してきた市内在住の方々に、当時の生活や体験について語ってもらいました。子供たちと一緒に

参加したお母さんたちも、真剣に耳を傾けていました。

羽釜や石うすなど、初めて使う道具に戸惑いながらも、子供たちは火をおこして米を炊いたり、石うすを回して、上新粉を作ったりしていました。

悪戦苦闘していた様子の子供たちですが、最後には「楽しかった!」という元気な声が聞こえてきました。古い道具を使いながら、その時の生活の大変さと楽しさ、両方を体感した行事でした。



石うす体験と、べこ餅作り



第51回特別展
マッチワンダーランド
～歴史・デザイン・喫茶店文化～
2007年7月21日(土)～9月2日(日)

本特別展では「歴史・デザイン・喫茶店文化」をテーマに、苫小牧とマッチのかかわりを様々な切り口から紹介しました。わずか3.5×5.5cmの小さな空間に繰り広げられた、マッチをめぐる世界に、見学する人々は魅了されていました。



展示構成

明治時代の後半、苫小牧郊外の植苗、錦多峰を中心にマッチ軸木・小函素地工場が相次いで建設されました。これは苫小牧が現在のような工業都市へと移り変わる先駆的な出来事でした。

展示室第1のコーナーでは、マッチ産業の歴史や苫小牧のマッチ工場の歴史を振り返りました。2番目のコーナーでは、明治時代から昭和初期まで国内外に流通したマッチラベル約3,000点を紹介しました。更に3番目のコーナーでは、1970年代、喫茶店全盛時代の苫小牧の広告マッチを、当時の街並みの写真とともに展示しました。

会期中は「ワンダーランドガイドツアー」と題した展示解説会や、展示資料にちなんだマッチラベルグッズの販売を行い、どちらも大変好評でした。



オリジナルマッチラベルを作ろう

子供向け体験行事として、マッチのデザインをテーマにした「オリジナルマッチラベル作り」を行いました。最初に学芸員により、マッチラベルの図解の意味などの説明があり、参加した人たちは、興味深げに聞き入っていました。

その後、参加者たちは、絵を描いたり、幾何学模様を色を塗ったりしながら、美しい作品を仕上げていました。



「Singing カフェ」

9月1日・2日には、出光興産株式会社主催のコンサート「Singing カフェ」が、苫小牧市民会館と、博物館前の市民文化公園にて開催されました。本特別展のテーマの1つ「喫茶店文化」に関連し、欧米のカフェを連想させるような演奏内容になっていました。

中鉢聡氏、五郎部俊朗氏、晴雅彦氏の3人の歌手らが「パパゲーノ」など陽気なオペラの曲や、カンツォーネなどの曲目を披露しました。

アンコールの最後には、観客も一緒に「千の風になって」を合唱し、秋晴れの空の下、明るく楽しい舞台が繰り広げられました。



左から、晴氏、中鉢氏、五郎部氏

École de Paris パリを愛した画家たち展

※主催：トヨタ自動車北海道株式会社

10月13日(土) から11月4日(日) まで「エコール・ド・パリ パリを愛した画家たち展」が開催されました。これは、トヨタ自動車北海道株式会社の創業15周年を記念して行われた美術展で、トヨタ自動車株式会社が所蔵する絵画22点を公開しました。

初日のオープニングセレモニーには、大勢の方が来られ、来賓によるテープカットの後、学芸員の作品解説を聞きながら作品を鑑賞しました。



展示概要

20世紀前半、ヨーロッパ各国から多くの若き画家たちが、芸術の都パリをめざしました。イタリアからモディリアーニ、スペインからパブロ・ピカソ、ロシアからシャガール、遠く日本からは藤田嗣治らが集っています。

彼らはモンマルトルに共同のアトリエを構えるなど、たがいに交友を深め刺激を受けながら、それぞれの民族性に根ざした個性あふれる作風を築き上げました。

本展では、そうしたエコール・ド・パリの画家たちに加え、戦前戦後にパリへと渡りその影響を受けた日本人画家たちの作品も展示しました。



展示室の様子

展示室には、モディリアーニの「若い女性の肖像」、ローランサンの「王妃と王女」など、著名な画家の作品が並び、大人から子供まで、観る人たちを魅了していました。特に、柔らかい筆づかいと乳白色が印象的な藤田嗣治の「親子猫」は、「印象に残った」と多くの方がアンケートに回答していました。

美術展には、市内だけでなく、札幌や室蘭などの市外や、道外から訪れる人々も多く「次回も観に来たい」と次の開催を心待ちにする感想もありました。



1万人達成セレモニー

本美術展には毎日多くの市民が訪れ、11月3日(土)に、入場者数が1万人を突破しました。これを記念して、1万人目の入場者の方へ、トヨタ自動車北海道株式会社佐々木取締役より、花束と記念品が贈呈されました。

1万人目の入場者となったのは、市内の青木さんご家族でした。青木さんは「突然で驚いた。これをきっかけに、子供たちが絵を好きになればと願っている」と話をされました。



企画展

アイヌ語地名を歩く

—山田秀三の地名研究から—

主催：北海道立アイヌ民族文化研究センター

本企画展はアイヌ語地名研究に大きな足跡を残した山田秀三（1899～1992）の研究資料を収蔵する北海道立アイヌ文化研究センターとの共催で、苫小牧市立中央図書館講堂を会場に9月2日（日）から9月22日（土）まで開催しました。

山田秀三の地名研究資料は地図や文献のほか、現地調査時の写真やメモ類など膨大な数にのぼります。その研究姿勢は地図や文献による綿密な事前調査を行い、実際に現地で確認するという実証的な研究法で、その水準は高く評価され



ています。

本企画展では胆振地方と日高地方の資料を中心に展示公開されました。

会期中に491名の観覧者があり、講座や講演などの関連行事にも市内外から多くの参加者がありました。

博物館所蔵名品展

当館には、自然、考古、歴史、民族、民俗、美術の資料が、合計13万点収蔵されています。今回は、各分野の資料の中から、苫小牧市および北海道に関連する逸品を中心に、約60点の資料を展示しました。

自然分野では、オジロワシの剥製など「お祝い事の席に登場する生き物たち」を展示し、歴史分野では、松浦武四郎が明治2年に作成した初めての北海道地図である「北海道国郡図」、民俗分野では、市民の方から寄贈になった「昭和中期に使われてきた電化製品」を展示しました。

本企画展は4月28日から6月3日まで開催し多くの珍しい資料に来館者は目を留めていました。



寄贈機織り機除幕式

苫小牧の姉妹都市である東京都八王子市から、機織り機が寄贈され、11月3日の「文化の日」に除幕式と機織り体験が行われました。

八王子市は、古くから養蚕と機織りが盛んな街で、今回寄贈になったのは「高機(たかはた)」と呼ばれる、昔から使われてきた機織り機と同じ種類のもので、除幕式の後には、織物教室講師の長谷川薫子さんの手ほどきで、岩倉市長や市立東小学校の子供たちが、機織りの体験を行いました。踏木と数枚の板を動かし、横糸を縦糸の間に潜らせながら織物を製作する作業に、子供たちは夢中になって取り組んでいました。



野外体験・見学・観察会

有珠川5遺跡発掘体験会

6月2日、市内の遺跡発掘調査現場で、地域の子供たちを対象にした発掘体験会が開催されました。この地域からは、縄文早期の土器・石器など、苫小牧の貴重な資料が発掘されています。

今回は26名の親子が集まり、遺跡の発掘調査を体験しました。移植ごてで慎重に土を掘り進



めていく作業の大変さと緊張感を肌で感じながら、大昔の歴史と、その頃生きていた人々の生活に思いを馳せていました。

覚生川自然探検隊

樽前山の噴火の歴史と防災のしくみを学ぶため、毎年開催されている見学会です。今年は36名の親子が集まり、博物館や砂防施設を見学し樽前山について学習しました。



森の観察会

10月14日、北海道大学苫小牧研究林内の見学会を行いました。研究林の職員や学生たちの案内で森林観測用の施設見学、林内散策を行いました。



秋の森には、赤や黄に色付いた樹木の葉や不思議な形の種子、それを食べる鳥など、多くの発見がありました。



林内で見つけた木の実や葉などは、研究室に持ち帰り、皆で調べ、特に面白かったものを参加者同士で発表しました。

芸術探訪

「奇才ダリと本郷新のヒューマンイズム」

8月25日、北海道立近代美術館の特別展「ダリ展 創造する多面体」と、本郷新記念札幌彫刻美術館の収蔵作品を鑑賞しました。シュールな絵画で有名なダリと、同じく20世紀に活躍し、人間味溢れる彫刻を多く制作した本郷新の作品を、42名の参加者はじっくり鑑賞しました。



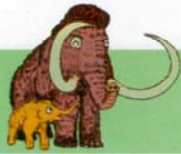
入館者60万人記念セレモニー

苫小牧市博物館は昭和60年11月に開館して以来、22年間、多くの方々に来ていただきました。2月17日、入館者数が60万人に達しましたので、これを記念し「入館者60万人記念セレモニー」を開催しました。

60万人目の入館者は、市内在住の西澤さんご家族で、記念品として、館長より、花束と記念品を贈呈しました。

西澤さんは「現在開催中の『新着寄贈展』を見に来た。突然のことでびっくりした」と、お話をしていました。





友の会 通信

友の会祭り

5月5日、博物館友の会の活動を市民にPRするために「友の会祭り」が開催されました。



「土器」や「木組みの作品」など、友の会の行事で制作した作品の展示のほか、「木の実のケーキ」や飲み物のサービスを行い、多くの方が足を運んでいました。午後からは、友の会の揚妻理事と一緒に



文化公園に飛び出し「フィールドビンゴ」に取り組み、新緑の下、楽しいひとときを過ごしました。

おがる道場～樹木編～

北海道弁で、成長することを「おがる」と言います。「行事に参加しながら、学び、ステップアップしていこう」という目的のもと「何でも検定 おがる道場」が発足しました。その第1弾として、8月3日「おがる道場～樹木編～」が行われました。樹木医である金田理事と一緒に文化公園を散策し、公園内のいろいろな樹木の名前と特徴を観察しました。樹木の特徴について学んだ後「木の名前と豆知識」についてのミニテストを行い、「おがる道場検定認定証」が、全員に渡されました。



平成20年度の行事予定

企画展・特別展

第20回企画展「市所蔵美術品展～街をいろどるアートたち～」(4/26～6/1)
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵「アイヌ工芸品展」(7/12～8/17)
市制60周年記念・出光興産株式会社北海道製油所操業35周年記念事業
「出光美術館コレクション 板谷波山展」(9/27～11/3)

観察会・見学会・体験事業

芸術探訪「北海道立近代美術館」(8/30) 森の観察会(8月) 覚生川自然探検隊(8月)
土曜ミュージアム「昔の暮らし探検隊」・・・「洗濯体験」「石臼体験」「せんべい焼き」など
土曜体験教室・・・「オオウバユリのデンプン作り」「うちわ作り」「動物形の土製品作り」など
(行事の内容・日程は変更することがあります)

苫小牧市
博物館だより

平成20年3月31日発行・第57号

編集・発行：苫小牧市博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel：(0144)35-2550～2552 Fax：(0144)34-0408

URL: <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/>